

# 『源氏物語』の心を読む ～若菜(わかな)上の巻・下～

開講計画 全10回／各90分

回	日付	曜日	10:30～12:00
1	4/12	水	紫の上、女三の宮に対面
2	4/26	水	紫の上、源氏の四十歳の祝い
3	5/10	水	秋好む中宮、夕霧、源氏の四十歳の祝いをする
4	5/24	水	明石の女御、男御子誕生
5	6/14	水	明石の君、父入道からの入山する遺言の手紙を見て悲しむ
6	6/28	水	明石の君、娘の女御に手紙を見せる
7	7/12	水	源氏、女御に、継母紫の上の厚意を説く
8	7/26	水	夕霧、女三の宮を批判する
9	8/9	水	柏木、女三の宮を垣間見る
10	8/23	水	柏木、女三の宮の乳母子の小侍従に恋文を届ける

受講料 16,000円(教材費別)

定員 35名

## 作品に感動するひとときを、心の糧(かて)にしましょう

源氏は、兄・朱雀院の三女・女三の宮と結婚し、紫の上は、正妻の座を譲ります。その後、紫の上は、女三の宮ともうまく交流して、源氏四十歳の祝いも果たします。源氏の実子・明石の女御は、無事男御子を出産し、明石の君は、父・入道からの遺言の手紙を受け取り、娘の女御にも見せます。女御は、住吉の神の導きによって現在があると知り、源氏は、女御を是までに養育した紫の上を礼賛しますが、降嫁して迎えた正妻・女三の宮の未熟さが気に入りません。そこへ、前から思いを寄せていた柏木が、女三の宮を垣間見て恋慕しはじめます。

講師

本学名誉教授

うめの

こ  
梅野 きみ子

### テキスト・教材

初回、教室にてテキストを販売します。お持ちでない方は、講座申込み時に注文してください。テキスト以外に、他の本の持ち込みも可能です。

①宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 若菜上』

編者 村井順 新典社 1,980円+税

②仮名変体集 編者 伊地知鐵男 新典社 350円+税

③新潮日本古典集成『源氏物語 五』

校注者 石田・清水 新潮社 3,630円+税

※①は必須、②③は任意 ※2023年1月現在